

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）

日時：2019年5月19日（日）10:00-13:00 干潮時刻 11:14 天気 晴

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

昨年は雨でしたが今年は日曜日の晴天で、潮干狩り客でかなり混雑する木更津漁協の潮干狩り場に行きました。基本的には昨年（下図の緑線）同様の範囲を同じようなルート（青線）を歩き、所々で熊手、手網を用いて底生動物の状況を沖合 800m程度まで確認しました。

潮干狩り場に向かう路上で、潮干狩りを終えて帰るお客さんとすれ違ったので、今年はたくさん採れるであろうと思いました。結果としては、昨年よりは大粒な傾向で量も多く、ハマグリも結構混じりました。入場料の1800円（制限重量：2kg、超過は追加料金）は据え置きでした。

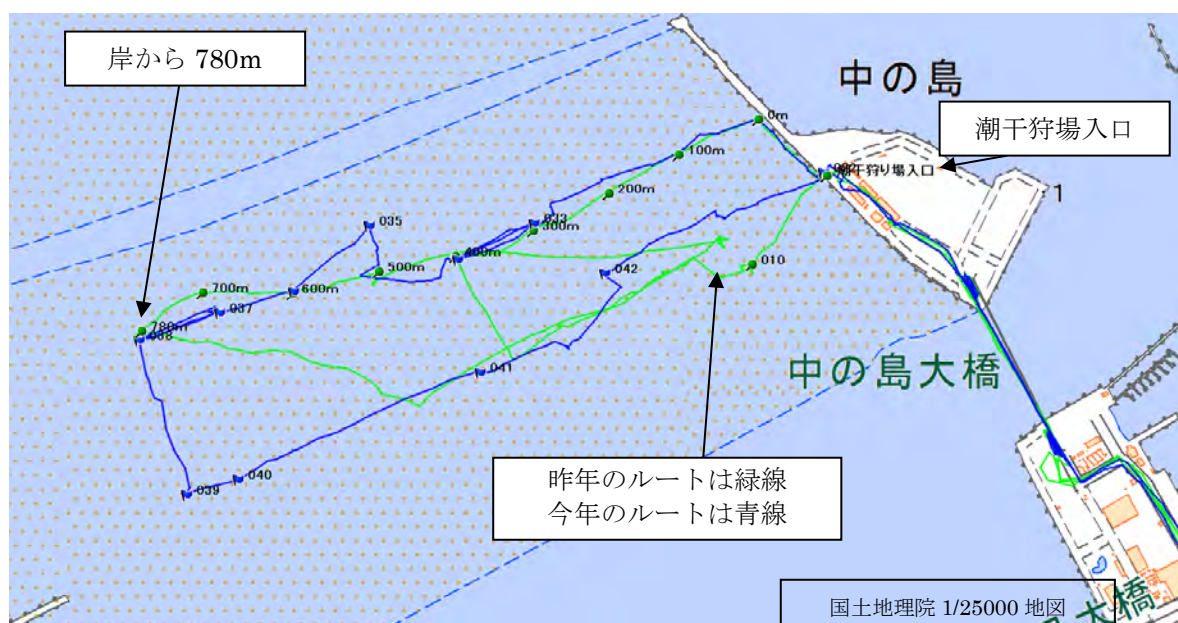
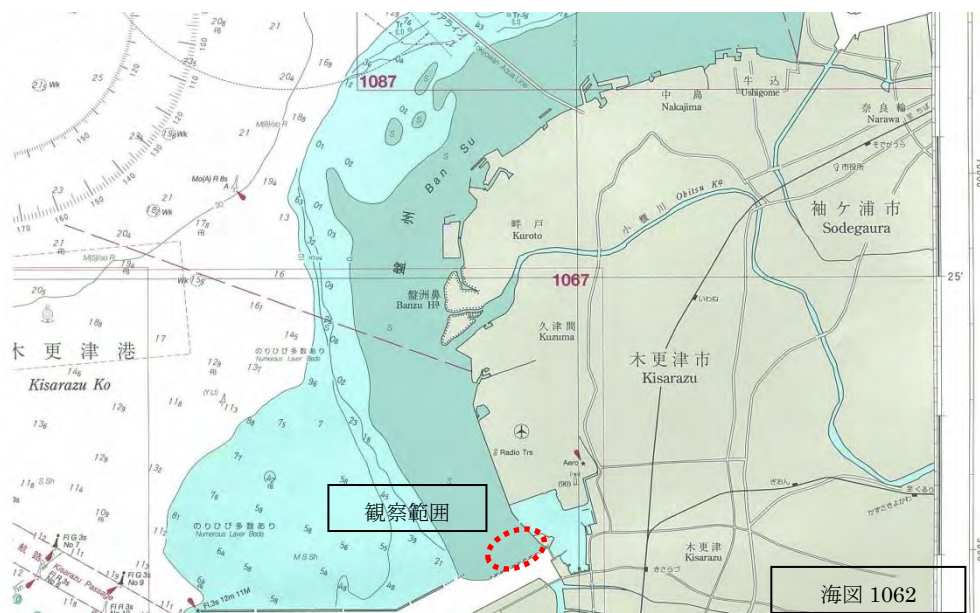


図-1 観察の範囲と観察ルート

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

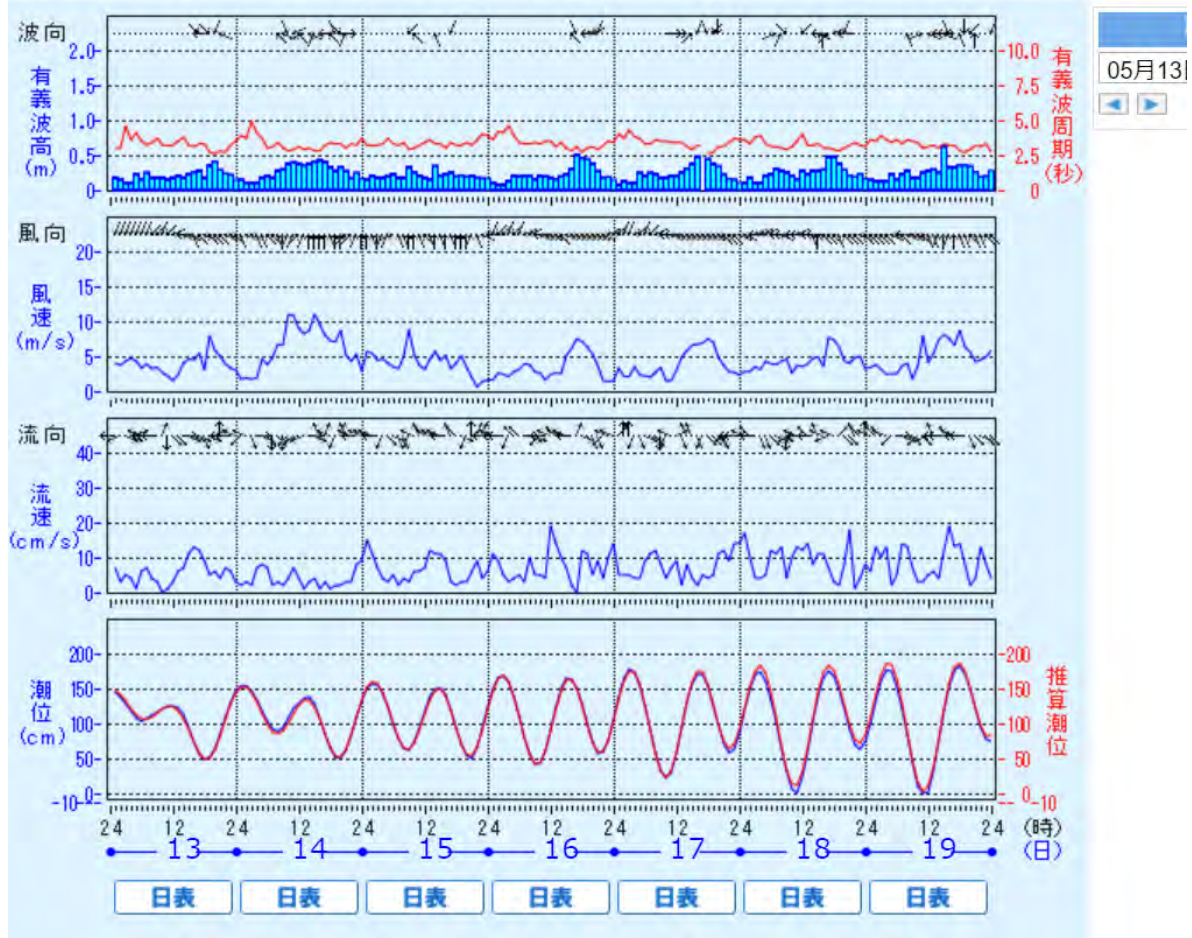
例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期にします。4月の予定がずれ込み5月となりました。

潮位実測データ（東京都港湾局）を確認したところ、図-2に示したとおり概ね推算潮位で見込まれたのと同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）

観測期間：2019年05月13日～2019年05月19日

観測地点：東京港波浪観測所



5月19日

<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

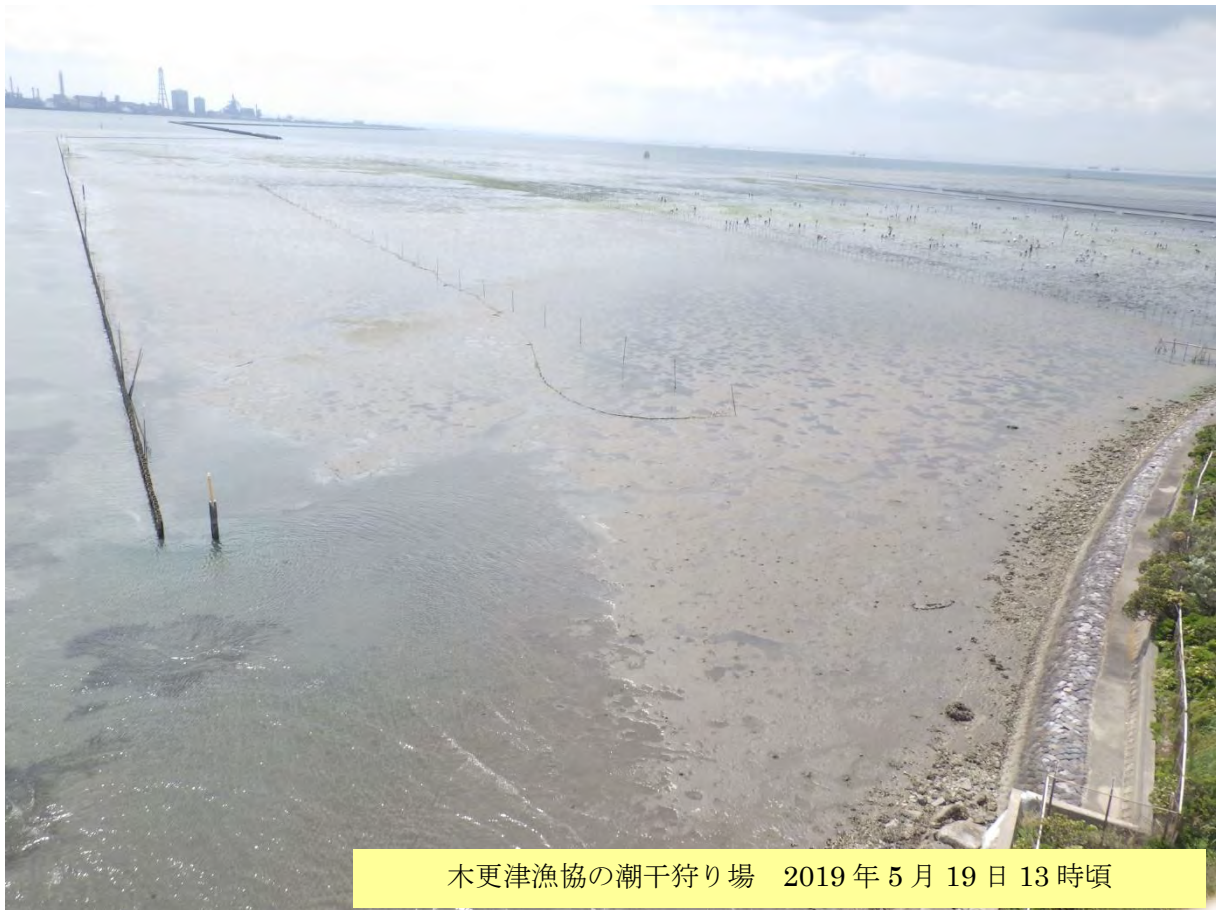
観測期間：2019年05月13日～2019年05月19日

観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）



木更津漁協の潮干狩り場 2019年5月19日10時頃



木更津漁協の潮干狩り場 2019年5月19日13時頃

【潮干狩り場】

大変多くの潮干狩り客で混雑です。

波打ち際にアオサ等の海藻類が少々ありましたがゴミの打ち上げはなく、干潟の砂泥質はぬかるむことなく歩きやすく、腐敗臭が漂わない状態でした。



☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸の直近では貝殻が混じる砂地でやや黒みがかっていませんでした。護岸付近の石には、カキ類が付着していました。



ステンレス製のザルで砂を篩ったところ、アラムシロガイの他にアサリの稚貝が少しいました。



【岸から 100m 付近】 周囲には潮干狩りお客さんがたくさんいて、獲物袋にはアサリの他にハマグリも入っていました。砂泥中からは、多毛類（ゴカイの仲間）、キサゴ（巻貝）がでてきました。試し堀程度でアサリとハマグリ（2個）が採れたので驚きました。



【岸から 200m】潮干狩りの人々は昨年同様にこの辺りまでで、さらに沖方向では人影がまばらでした。これよりも沖方向では干出がほとんどなく、水深が5~10cm程度あったためでしょうか？ところどころにコアマモが繁茂しており、アマモも見かけました。砂泥質の時には、クロムシの巣（タマシキゴカイキサゴの糞塊）や砂茶碗（ツメタガイの卵塊）を見かけました。アラムシロガイの他に、キサゴが目立つようになりました。掘ってみると、アサリも結構いました。シオフキガイ（結構大きい）を1個体だけ見つけました。



【岸から 300m】コアマモが群生しています。昨年とはところどころ見かける程度でした。アサリ、キサゴがいました。アサリの稚貝は目に付きません。



【岸から 400m】コアマモが干潟を覆いつくしています。アサリも多少いましたが、ツメタガイの卵塊がありました。アサリの殻には、ツメタガイがあけた穴が見られました。



【岸から 500m】

コアマモの群落地となっており、ところどころにアマモが混在しました。キサゴが多く出現しました。アサリ、シオフキガイは目に付きませんでした。



【岸から 500mで北側に出現した干出地】

干潟が干出したように見えたが、コアマモの群落でした。砂泥の中には、キサゴが多く出現しました。



【岸から 600m】一面にアマモの藻場が広がります。貝殻のない砂地でキサゴがたくさんいまし



【岸から 700m】一面のアマモ群落で、砂地にはツメタガイの卵塊がいくつか出現しました。砂地では貝殻が多く混入し、現場で出現種を確認する時間がありませんでした。



【岸から 780m】

このあたりは砂地が干出する干潟の沖側の縁辺部です。風や潮汐による水の流れ、河川からの出水による土砂供給、航路掘削などの「水の流れと土砂の需要供給状況」で、沖合分で干出する場所が変化する可能性があります。今回の干出位置（調査地点）は昨年と概ね同じ位置でした。貝殻の混入が少ない砂地であることも昨年同様です。

砂地には、貝類の水管の痕跡が多く確認されましたが、いたのはキサゴのみでした。バカガイ、シオフキガイ、ハマグリ、アカガイ、サルボウガイ、アサリ、マテガイなど想定された貝類は、短時間の調査ということがあったかもしれませんが見当たりませんでした。昨年同様にメジメジと呼ばれて干潟上をマット状に覆うホトトギスガイには気が付きませんでした。



【岸から 780mの地点から南に歩いた範囲_地点 No.039 (岸から 800m 程度)】

砂地にアマモが点在していました。貝類の水管の穴が多数あり、掘って見たらキサゴでした。



【地点 No.039 から岸寄りに 50m くらいの地点_No.40】

岸から 800m の地点同様な状況でした。砂地にはクロムシの巣(タマシキゴカイの糞塊)、キサゴ、潮だまりではハゼ類、エビシャコがいました。





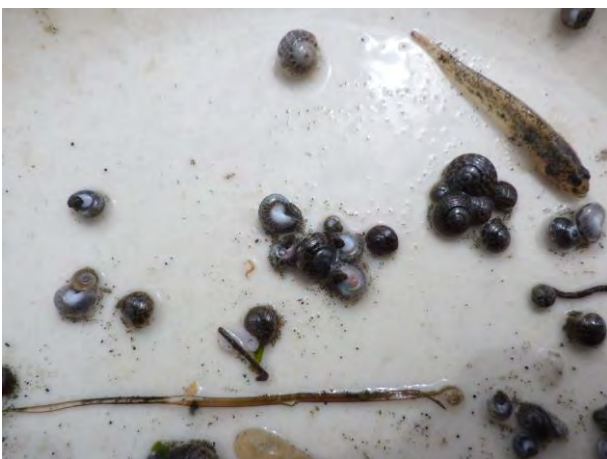
【潮干狩り場の南西側範囲で岸から 450m あたりに位置する No.41】

潮干狩り客はいません。アサリは多少は確認されましたが、稚貝は目に付きませんでした。



【潮干狩り場の南西側範囲で岸から 300m あたりに位置する No.42】

潮干狩り場は、この地点よりも岸寄りです。沖方向を見ると潮干狩り客は誰もいません。よく見ると、ハマグリをたくさん採っている人もいました。



【今回の獲物とその後】

持ち帰り 2kg に対して 1.5kg の追加料金を支払い持ち帰りました。アサリがたくさん採れたこととなかではハマグリが結構あったことです。

ハマグリは全量(1.65kg)持ち帰りました。ちなみに、アサリは 1.8kg、シオフキガイ 1 個でした。ハマグリはお吸い物、アサリは味噌汁で、味わい深くおいしくいただきました。



以上です。